

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第51週 (12/19-12/25) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		51週	50週	49週	48週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	12/19-12/25	12/12-12/18	12/5-12/11	11/28-12/4	12/12-12/18	
			51週	50週	49週	48週	50週	
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	5 0.28	6 0.33	6 0.35	28 0.21	
	咽頭結膜熱		0 0.00	3 0.17	3 0.17	1 0.06	51 0.38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46 2.56	42 2.33	46 2.56	44 2.59	569 4.21	
	感染性胃腸炎	★ ↓	323 17.94	430 23.89	357 19.83	293 17.24	3,255 24.11	
	水痘		7 0.39	8 0.44	8 0.44	13 0.76	93 0.69	
	手足口病		7 0.39	13 0.72	17 0.94	17 1.00	70 0.52	
	伝染性紅斑		1 0.06	3 0.17	2 0.11	2 0.12	14 0.10	
	突発性発しん		11 0.61	9 0.50	8 0.44	10 0.59	58 0.43	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.04	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05	
	流行性耳下腺炎		9 0.50	6 0.33	3 0.17	8 0.47	49 0.36	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフル エンザを除く)	○	193 6.89	117 4.18	108 3.86	93 3.44	1,018 4.73	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		4 0.80	4 0.80	4 0.80	1 0.20	27 0.79	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	16 1.78	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	90歳代	病原体の検出	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第51週は、結核1件(233)、梅毒2件(28)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第51週のコメント

＜感染性胃腸炎＞前週より減少し17.94となり、流行発生警報開始基準値を下回った。流行発生終息基準値は上回っている。過去10年の同時期と比べると多い。

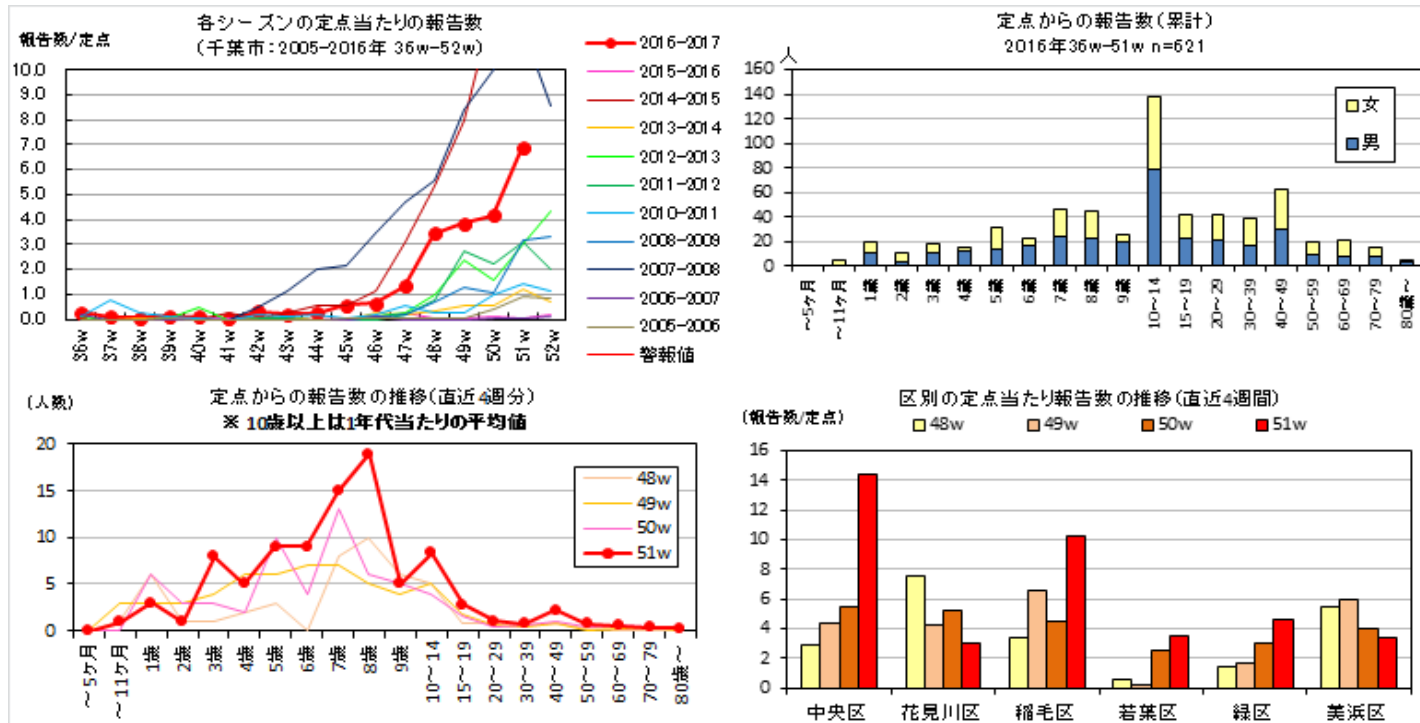
＜インフルエンザ＞前週より増加し6.89となった。過去10年の同時期と比べると多め。

トピック

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第50週は、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き多くなっています。都道府県別では、福井県、富山県、栃木県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第51週は、前週より増加し6.89となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、中央区(14.3/定点)で流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回り最多となり、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは8歳で最も多く発生報告がありました。また、稲毛区でも流行発生注意報基準値を上回っています。今シーズンである2016年第36週から第51週までの累積報告数(n=621)によると、性別では男性が53.0%(329名)、女性が47.0%(292名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(7.4%:46名)、8歳(7.1%:44名)、5歳(5.2%:32名)の順に多くっており、20歳未満は全体の67.1%、10歳未満は全体の38.2%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第50週は過去9年の同時期と比べると最多となり、流行発生警報開始基準値(20.0/定点)を上回りました。都道府県別では、山形県、宮城県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉市は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第51週は、前週より減少し17.94となり、流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生終息基準値(12.0/定点)は上回っています。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(31.0/定点)で依然として流行発生警報開始基準値を上回ったまま最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区及び中央区で流行発生警報開始基準値を上回っており、緑区及び美浜区で流行発生終息基準値を上回っています。今シーズンである2016年第36週から第51週までの累積報告数(n=2915)によると、性別では男性が53.9%(1571名)、女性が46.1%(1344名)で、年齢階級別では4歳(13.5%:394名)、1歳(12.6%:368名)、5歳(11.1%:323名)の順に多くなっています。

